

令和2年度 3 包括合同介護支援専門員研修会 報告書

リボン地域包括支援センター
地域包括支援センター府中会
ふもと地域包括支援センター

- 1 開催日時 令和2年10月15日(木) 16:00~17:30
2 開催場所 上越市春日謙信交流館 第1・2・3 集会室
3 参集者 担当地区所在の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所の介護支援専門員 23 人 市内総合病院連携センター職員 3 人 訪問看護ステーション看護師 3 人 担当地区調剤薬局薬剤師 23 人 上越地域在宅医療推進センター2 人 54 人 (高齢者支援課介護指導係 1 人 すこやかに暮らし包括支援センター1 人 3 地域包括支援センター 12 人)

- 4 内 容 テーマ：医療と介護のターミナル期の支援を考える。
事例「癌の終末期を自宅で家族と過ごす方の支援」をもとに、
①事例に対する質問を通じて課題を抽出する
②医療と介護の連携において何を確認すべきかを検討する。
についてグループで話し合う。



- 5 成果と考察 コロナ禍での研修会開催だったため、何よりも感染予防対策への十分な配慮、準備を行った。一グループは5、6人編成とした。薬剤師の参加が多かったのでグループに2人ずつ入る構成となった。訪問看護師の参加が少数だったことは残念だった。
- グループワークでは、各職種の専門的視点や立場を活かして、食事量、病気の進行具合、家族の介護力、医師への信頼度、病院から得るべき情報、いつの時点で誰が必要情報を収集するのか、本人・家族が現状や医師の説明を理解できているか等、課題や気づきがあった。また、確認すべきこととして、状況等から確認に躊躇する内容でも、確認しなくてはならない医療情報や本人・家族の思いや希望はまず介護支援専門員が聴取する役割を担う、と他職種からの期待があることも確認できた。
- 参加者は、利用者のために自らの専門性や情報を提供し連携したいと思っており「明日からできること」として、多職種との積極的な連携を図れるよう動きたい。利用者本人・家族の思いを聞いている

きたい、など支援者としての思いの確認もあった。

ターミナル期の方の支援に限らず医療、医療職と連携した支援提供の必要性と、そこに参画したいと言う思いを共有でき目的を達成できた。

- 6 今後の取組 多職種参加による事例を使った研修会の開催を行いたい。地域連携連絡票による情報提供にも、特に支障や意見はなく内容の読み取りも行えていた。連携票の活用認識も高まっていると感じた。研修会等により、支援者同士が顔見知りになることで連携も深まる。
- 7 研修会資料 報告書、当日の写真、アンケート結果、グループワークの記録